

愛知学院大学歯学部同窓会

朝日大学歯学部同窓会

松本歯科大学校友会

共 催

女性会員交流会

報告書

(ホームページ版)

日時：平成 27 年 11 月 29 日（日）11:00～15:00

会場：ミッドランドスクエア

東海東京証券会議室&プレミアムサロン

第 2 回 3 校共催女性会員交流会

【巻頭言】

愛知学院大学歯学部同窓会・朝日大学歯学部同窓会・松本歯科大学校友会は東海地方の歯学部同窓会として、毎年、「三歯科大同窓・校友会懇親会」を開催して交流を深めてまいりました。しかし残念ながら、女性会員の参加は皆無といってよい状態でありました。一方、全国組織である全国歯科大・歯学部同窓会・校友会懇談会いわゆる「全歯懇」においても同様でありましたが、2014 年 11 月、「女性会員がより輝くために」というテーマで開催された際、初めてこの三校からも女性役員が出席し、各同窓会での女性会員活動について報告いたしました。

これを契機に、今後三校の女性会員も交流をしようということになり、2015 年 1 月に各校から 5 名（愛知学院大学は 7 名）が参加し、名古屋駅前で第 1 回親睦交流会が開催されました。その中で、交流会継続の決議がなされ、今回本格的な交流会開催の運びとなりました。

この間に、松本歯科大学では、女性会員のための「桔梗会」が発足しました。朝日大学歯学部では同窓会本部活動はないものの、以前からいくつかの支部で女性会員の会が開催されてきています。愛知学院大学歯学部では、2008 年から女性企画委員会が活動してきました。

今回、朝日大学、松本歯科大学では世話人によるロコミで、愛知学院大学ではホームページおよび同窓会広報を通じ参加者を募集したところ、各世代の女性歯科医師 86 名の参加を得ることができました。また、ご来賓として日本歯科医師会女性理事竹内千恵先生のご臨席を賜りました。

三校の世話役が協力し、準備から実施まで汗を流し、無事盛会裏に終了することができました。交流の第一歩である、お互いの顔を知り、そして親睦を深めつつ、研修するという会の目的が果たせたのではないかと自負しております。

更に、このたび 2015 年 11 月 28 日開催の三歯科大同窓・校友会懇親会において「三校会女性会員協議会」の発足が認められました。ここに報告書を作成し、ご協力いただきました関係各位に感謝しつつ、今後の活動につなげたいと考えています。

平成 27 年 12 月吉日

【開催日時】 平成 27 年 11 月 29 日（日）11:00～15:00

【開催場所】 名古屋駅前・ミッドランドスクエア
東海東京証券会議室、プレミアムサロン

【参加者】 女性歯科医師 86 名

【来 賓】 日本歯科医師会理事 竹内千恵先生

【スケジュール】

11:00 開会
11:15 講演
12:15 昼食
13:00 テーマ別座談会
14:00 ティータイム・座談会まとめ・お楽しみ抽選会
15:00 閉会

【講 演】



「女性歯科医師の現状」

福岡歯科大学同窓会副会長、
同大学成長発達歯学講座成育小児歯科学分野講師
馬場 篤子先生

「女性歯科医師の現状」と題し、女性医師の勤務状況や職場環境への悩み、日本医師会や日本歯科医師会、日本小児歯科学会が取り組む復職支援の在り方などについてご講演していただきました。日本医師会実施のアンケート調査「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」を基に、馬場氏は女性医師による仕事を中断（休職）・離職した理由に関して「出産・子育ての理由が圧倒的に多い」と指摘され、女性医師が抱く悩みについては「家事と仕事の両立・プライベートな時間がない・勉強する時間がない」の3つが上位を占める」と述べられました。

また、日本医師会の女性医師支援センターや九州大学病院きらめきプロジェクト、日本歯科医師会の女性歯科医師の会ワーキンググループ、日本小児歯科学会女性小児歯科委員会など、各大学・団体が行う女性歯科医師の活躍を支える上での様々な取り組みについてもご紹介していただきました。



[馬場篤子先生の熱のこもった講演を熱心に聴く参加者]

【テーマ別座談会】（13:15～14:15 会場；8F プレミアムサロン オープンスペース）

～テーマ A 日常臨床 1～

参加者 14名

司会進行 村上多恵子（愛院大 8 回生）

書 記 今泉 三枝（愛院大 27 回生）

開業医より「勤務医に対しどのように技術を習得してもらえばいいか悩んでいる。」との発言があった。その発言を踏まえ、卒後 5 年以下の先生方に質問したところ「臨床研修は受けたが、卒後すぐに勤務した医院の院長の指導による影響が大きい。」「大学により臨床教育が異なり、卒後すぐに他大学とのレベルの差を思い知った。」などの意見が挙がった。それに対し、中堅開業医より「人により技術レベルの差は確か。相手にレベルを尋ねる。」との意見が出た。

CR 充填は入門の技術でもあるが、自費対象の CR 法もあり、技術の差は出やすい。特に乳前歯などは脱離も多く、新しい材料や技術の取り込み、正しい術式、患者説明など勘案事項は多い。加えて、近年は拡大鏡の使用は必須になりつつある。

また、歯周病で咬合面平面の維持のためにも、咬耗しない CR 剤が望まれるとの意見と、適度な咬耗が生じる CR 剤が望まれるとの相対する意見交換がなされた。

他に口腔乾燥症について発言があり、ストレスとの強い関連性について意見が出された。

【テーマ別座談会】(13:15～14:15 会場；8F プレミアムサロン オープンスペース)

～テーマA 日常臨床2～

参加者 15名

司会進行 中村 美保 (愛院大 22 回生)

書 記 佐久間恵子 (愛院大 22 回生)

20 歳代～60 歳代で、勤務形式はさまざまではあるが、全員が歯科医師として働いていた。最年長の先生の「40 歳になったらやめよう、50 歳になったら、60 歳になったら…と思いつつ、現在もまだ続けている。」という深みのあるお話から始まった。引き続き、『日常臨床で困ったこと』をサブテーマとして意見を伺った。

1 人で診療されている先生からは「自分の権利を強く主張する患者が多い。」「“Dr.が男じゃないんだったら帰る。”と言われたことがある。」「“この人とは合わない”と思ったら断るようにしている。」など、様々な苦悩があることがわかった。開業医において複数人で診療されている先生は、うまく患者の振り分けを行い、各々の専門分野を尊重しながら診療されているようであった。また、大学(小児歯科)の先生は、お母さんへの対応に苦慮されているようであった。勤務医の先生からは、「1 人で診療することになった時が心配。」「院長に治療のチェックをしてもらえず、間違っていないか自分の治療に不安を感じている。」というような現実的な意見が得られた。

ほぼ初対面の中で「歯科医師」という職業を通して話が盛り上がり、有意義な時間であった。若手の先生が、今回の座談会を通して今後の参考になるヒントを得たのなら幸いである。

【テーマ別座談会】(13:15～14:15 会場；8F プレミアムサロン セミナールーム)

～テーマB 医院経営・運営1～

参加者 9名

司会進行 近藤 万知 (朝日大 9 回生)

書 記 佐野乃里江 (愛院大 31 回生)

参加者の勤務形態は勤務医、開設者などさまざまであった。はじめに、いろいろな方と知り合い、自分の思いを伝えようと、それぞれの参加目的を発言した。参加者どうして悩み事、相談事などを披露しあい、何かの参考にしたいとの思いで参加した者が最多であった。12 名の参加者のうち、夫もしくは父と一緒に開業する者が 5 名、勤務医が 3 名、開設者が 4 名であった。

＝主な相談内容＝

- ・法人化のメリットはあるのか？
- ・法人化しているが 3 人ドクターの法人なので、今後どうするか？
- ・スタッフ雇用問題
- ・親子継承問題
- ・往診専門のドクターの確保問題
- ・歯科衛生士がおらず、歯科助手と診療しているが、歯科衛生士の確保のしかたは？
- ・近隣に新しく歯科医院ができるため、危機感がある。その対策は？
- ・歯科医師ではない夫に開業の許可を求めているが、難しい。どうすればいいのか？

また、求人において使用媒体の選択 (折り込みチラシ、ハローワーク、ホームページ、学校への訪問など)、目立つ求人票の作成、求人専門業者の利用などについて討論がなされ、いずれの方法も費用が

かかるが、それでも歯科衛生士を確保したいという思いを持つ者が多かった。

歯科医師会でも、歯科衛生士復職支援問題に取り組んでいる。「歯科衛生士は、歯科医師がしっかりと教育すべきである。」など、スタッフ問題が参加者の一番の悩みであるようだった。個々に悩みはあるようだが、女性だからこそ解り合える、理解できることがあると感じた。次回もこのような時間を設け、それぞれの解決策が見つければと感じた。

【テーマ別座談会】 (13:15～14:15 会場 ; 8F プレミアムサロン セミナールーム)

～テーマB 医院経営・運営2～

参加者 10名

司会進行 中原 弘美 (朝日大 6回生)

書 記 山根 典子 (愛院大 29回生)

まず、どのような内容を話し合いたいのか、各医院で困っていることはないかなどを尋ねた結果、以下の回答が得られた。

1. 現在、親や親戚、息子と一緒に診療をしており、世代交代の時期、その後の運営、雇用管理（スタッフの教育、関係づくり）の方法
2. 土地柄のせいか人口の流動性がなく高齢化が進み、治療も減少してきたため予防処置が大半であり、保険点数があがらない。点数を上げるにはどうしたらよいのか？
3. 歯科衛生士を募集してもなかなか見つからない。
4. 新患の集客方法

なかでも、1の内容をあげる者が最多であった。継承、運営に関しては、「フロアを別にするなど医院の中で住み分けをしながら継承していく。」「患者さんのデータはドクター別で保管して、過去の情報はわかりやすいようにしておく。」「機器は良いものを購入していく。」などであった。「ドクターが治療を行っている間、スタッフは口を挟まず、流れをつかめるように教育するほうがよい」との意見があった。2～4に関しては、「自医院のホームページを作り、自院の特徴を全面的にアピールすると、それを望む患者さんが集まってくる」、「ネット予約やメールで患者さんとのやりとりができるといい」、「求人募集などの情報も載せると新しいスタッフも見つけやすい」などの意見が出た。3に関しては、「退職したスタッフと現スタッフのつながりが強いと、再職希望者が見つかる可能性がある」、「最近、厚生年金に入っているとスタッフが集まりやすい」との意見が出た。

(ハッキリとした解答は、今回の時間の中ではできませんでしたが、いろいろな意見が出て、座談会の参加者の先生の参考になったと思いました。)

【テーマ別座談会】 (13:15～14:15 会場 ; 8F プレミアムサロン セミナールーム)

～テーマC 育児から介護～

参加者 10名

司会進行 城所貴美恵 (朝日大 23回生)

森 榮 (愛院大 6回生)

書 記 森岡 貴子 (愛院大 30回生)

井上 泰子 (愛院大 24回生)

20～60 歳代の 22 名で「育児から介護」について話し合われた。全員の自己紹介の後、「育児休暇を取得したか？」という質問から始まり、出産経験のある参加者の体験談が語られた。若い先生から「子供の突然の発熱に苦慮している」、「夫の転勤が多く仕事先を探しにくい」、「子供の受験に対して不安」、「夫と育児方針が違う」などの意見が出たのに対して、「ベビーシッターや近所の子育て経験者に助けてもらった」、「同窓生は助けてくれるため同窓会との関係を持つべき」、「母親の元気な姿を見せたほうが子供の教育上有益であることを夫に理解してもらうべき」などの助言がなされた。

職場環境、夫の職種などそれぞれ立場は違うが、「女性は仕事以外の雑務が多く、時間不足のためプロに任せられる所は割り切って任せる」、「一人で悩まずこういった女性交流会に参加して交友関係を広げるのは有意義ではないか」との意見が出た。時間が足りず介護の話はあまり発展できなかったが、とてもいい雰囲気でも終了した。



〔 座談会一コマ 〕

〔



〔 各座談会で話し合われた概要を参加者に報告する座長の皆さん 〕

(1)

2015年 (平成27年) 12月1日 (火曜日)

(昭和42年9月22日)
(第三種郵便物認可)

日 本

世代超え女性歯科医師が交流

日々の臨床から育児・介護との両立、医院経営・継承など働く女性特有の問題や悩みについて、20〜60代の女性歯科医師約90人が意見交換した。11月29日に名古屋市内で開かれた愛知学院大学歯学部同窓会、朝日大学歯学

部同窓会、松本歯科大学校友会（＝三校会）主催の女性会員交流会のテーマ別座談会によるもので、同交流会の冒頭あいさつでは28日の「三校会の会合で「三校会女性協議会」が認められたとの報告もされた。（詳細は次号）



加え、死亡者を減じていく

日 本 歯 科 新 聞

(第3種郵便物認可)

女性歯科医の活躍支援

愛知学院歯学部同窓会ら 女性会員交流会を開催



講演で馬場氏は「卒業後も歯科医師として仕事が続けられるよう、少しでも環境を作ることは大学で教える者としての役目」と話した

愛知学院大学歯学部同窓会、朝日大学歯学部同窓会、松本歯科大学校友会（＝三校会）は、第1回女性会員交流会を名古屋市のミッドランドスクエアで11月29日に開いた。

あいさつで三校会世話役代表の森榮氏は「旧来より三校会は切磋琢磨してきた。けれど女性会員に対する視点が欠けていた。今後は女性歯科医師の活躍を促す取り組みを積極的に進めたい」と考え、今回の交流会開催に至ったと説明。松本歯科大学校友会理事で司会進行役の伊藤三智子氏は「11月28日に行われた三校会の会合で『三校会女性協議会』が認められたと報告した。講演では、福岡歯科大学同窓会副会長で同大学小児歯科講師の馬場篤子氏が「女性歯科医師の現状」と題し、女性医師の勤務状況や職場環境への悩み、日本医師会や日本小児歯科学会、日本小児歯科学会が取り組む復職支援の在り方などについて話した。日医実施のアンケート調査「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」（2008年12月〜09年1月）を基に、馬場氏は女性医師による仕事を中断（休職・離職）した理由（n＝12946、複数回答）に関して「出産69.7%」「子育て38.1%」の理由が圧倒的に多いと指摘。女性医師が抱く悩み（n＝6656、複数回答）については「家事と仕事の両立（64.1%）」「プライベートな時間がない（44.6%）」「勉強する時間が少ない（43.8%）」の三つの理由が上位を占めること述べた。

また、日医の女性医師支援センターや九州大学病院きらめきプロジェクト、日歯の女性歯科医師の会、ワキンググループ、日本小児歯科学会女性小児歯科学委員会など、各大学・団体が行う女性歯科医師の活躍を支える上でのさまざまな取り組みも紹介した。

さらに「日常臨床」「医院経営・運営」「育児から介護」のテーマ別座談会が行われ、卒業後臨床研修を経ての技術レベルに差がある、「仕事と子育ての両立が難しい」「医院継承がなかなか進まない」などの悩みに対し、それぞれ意見交換した。

女性会員交流会アンケート結果をふまえて

愛知学院大学歯学部同窓会女性企画委員会 委員長 中村 美保

I 緒言

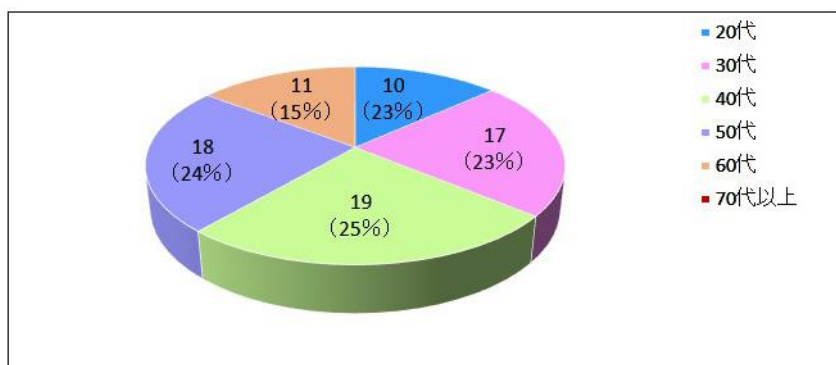
去る 11 月 29 日（日）、名古屋駅前ミッドランドスクエアにおいて開催された「女性会員交流会」（愛知学院大学歯学部同窓会、朝日大学歯学部同窓会、松本歯科大学校友会の 3 校共催）に参加させていただき、また本同窓会女性企画委員として一部運営にも携わらせていただきました。

参加者総数 86 名（主催者側を含む）すべて女性で、「講演」の後、「昼食」を挟んで、「テーマ別座談会」、その後は「お楽しみ抽選会」という形式で進められました。その折、アンケートを行い、女性歯科医師の意識の一端を垣間見ることができましたので、主としてその結果をご報告いたします。

II アンケート結果（アンケート回答者 75 名）

1. 年齢分布

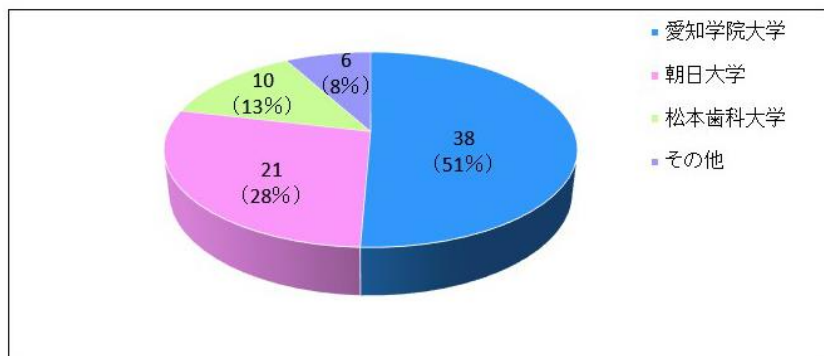
①20 代 ②30 代 ③40 代 ④50 代 ⑤60 代 ⑥70 代以上



20 代から 60 代まで幅広い年代の先生方にご参加いただきました。現在に女性歯科医師の意識をある程度広範に把握できたと考えています。若い世代の先生方にも多数ご参加いただきました。

2. 出身大学

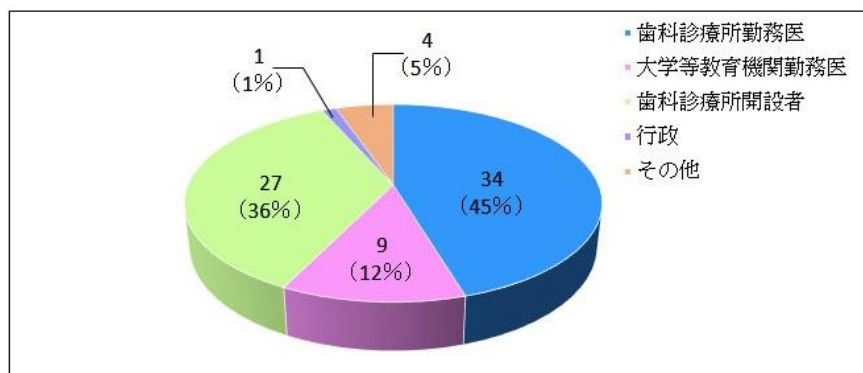
①愛知学院大学 ②朝日大学 ③松本歯科大学 ④その他



約半数が愛知学院大学、28%が朝日大学、13%が松本歯科大学、8%がその他の大学ご出身との結果が出ました。

3. 職場での立場

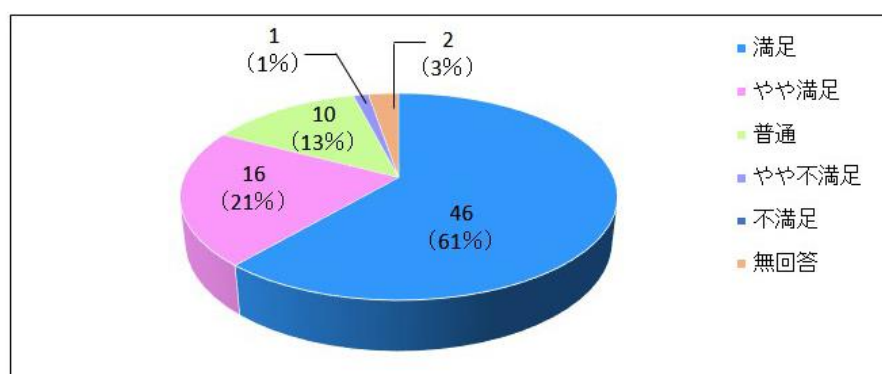
①歯科診療所勤務医 ②大学等教育機関勤務 ③歯科診療所開設者 ④行政 ⑤その他



大学と歯科診療所に勤務する歯科医師が 57%、開設者が 36%で合わせると参加者の 9 割近くが実際に歯科医師として就業している方がほとんどでした。

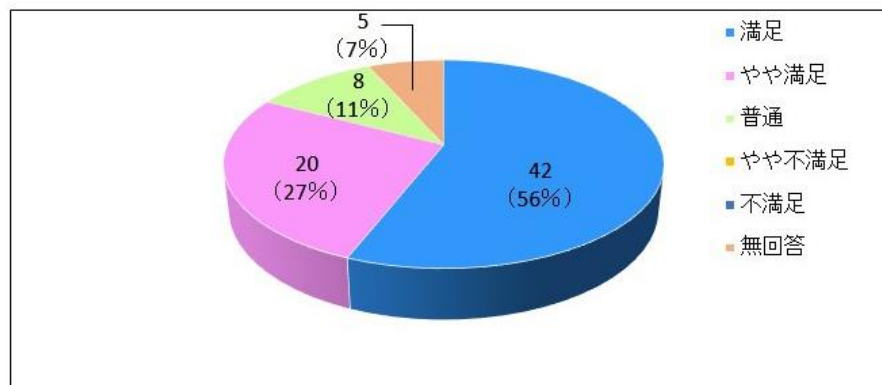
4. 講演内容

①満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満足 ⑤不満足



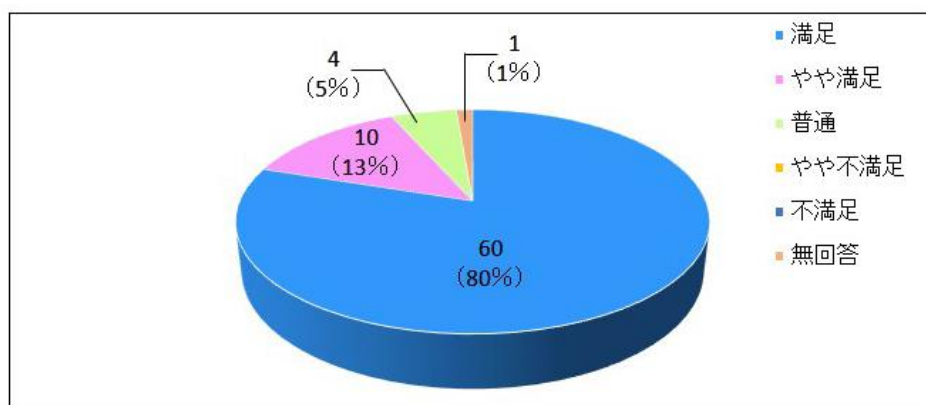
5. テーマ別座談会

①満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満足 ⑤不満足



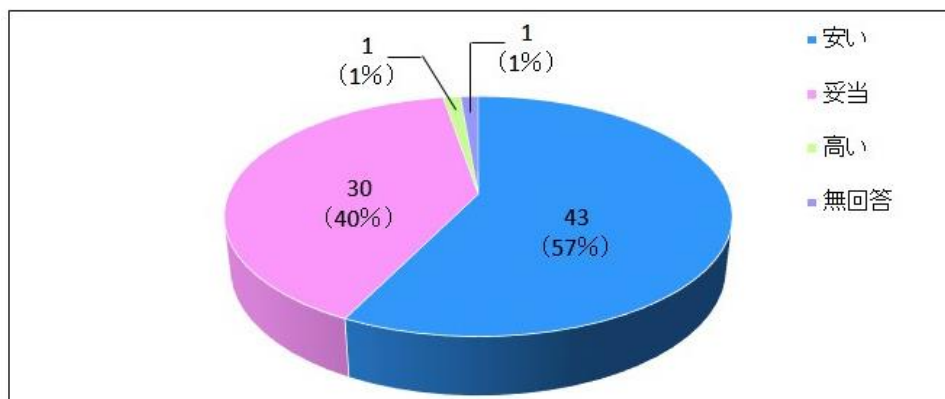
6. 会場について

①満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満足 ⑤不満足



7. 会費について

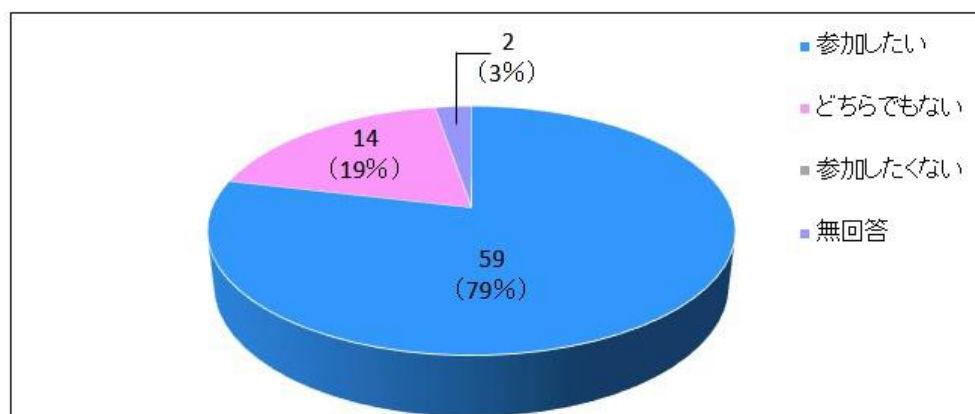
①安い ②妥当 ③高い ④無回答



設問4～7については、80%以上の方が満足されるという、高い評価を受けました。

8. 今後も三校女性会員交流会に参加したいと思いますか？

①参加したい ②どちらとも言えない ③参加したくない



約80%の先生方が、再度の参加を希望されました。今後の企画を大いに張り切らざるを得ないと感じました。

Ⅲ アンケート結果の考察

・[1. 年齢分布]では、幅広い年齢の先生方にご参加いただけたのは、同窓会ならではの強みであり、将来に期待感いっぱいの若い先生方と、後進の先生方への思いやりをもったベテランの先生方とも協議は、非常に意義深いものを感じました。

・[2. 出身大学]では、近隣の3大学が多いのは当然ながら、今後他大学の先生方にもご参加くださるよう、積極的に呼びかけができたと思います。

・[3. 職場での立場]では、勤務医が全体の57%を占め、同窓会独特の結果かと思えます。また、実際に歯科医師として就業してみえるからこそ、交流会に関心を持ち、積極的にご参加いただき、ご自身を含めて「一歩でも前へ」という気持ちを感じました。

・[4. 講演内容]に関しては、今回はご満足していただけた会員が多かったが、今後は「女性として活躍してみえる方」あるいは「経営」、「臨床」に関すること等々、検討の余地を感じました。

・[5. テーマ別座談会]に関しては、女性同士の忌憚のない意見交換の場が他にはなかなかないのが好評で、今後、幅広いテーマを取り入れていけたらと思います。

・[6. 会場について]に関しては、交通の便、あるいは女性でも楽しんで参集できる会場周囲の環境も重要な要素と捉えています。

・[7. 会費について]に関しては、気楽に参加していただける価格にしていくことは、非常に重要だと考えています。

・[8. 今後も参加したいと思いますか?]に関しては、お世辞もあったかもしれませんが、約8割の先生方が再度の参加を希望されたのは、今後の発展的な継続をしていくべきと感じました。

今回のアンケートでは、参加会員の交流会に対する様々な捉え方が表面化しました。育児、介護等は女性の役割という考え方がまかり通っている昨今ですが、そういう厳しい状況の中で、それぞれの自分にとっての将来に夢を持って、少しでも歯科医師として、「前に進みたい」という気持ちを感じることができました。

【スタッフ】

- ・愛知学院大学歯学部同窓会

(女性企画委員会) 中村・佐久間・森岡・森・村上・祖父江・渥美
西尾・井上・西村・今泉・山根・兵藤・佐野

- ・朝日大学歯学部同窓会 橋本・中原・越智・近藤・城所・五藤

- ・松本歯科大学校友会 伊藤・岡田・守安・松田・杉本



【エピソード】

交流会終了後、世話人に届いたメールを紹介させていただきます。

嬉しかったので、メールいたします。

先日の3校交流会の座談会でお知り合いになった、G市K先生のお母様かお祖母様が私の母の女学校の同級生だったらしく、K先生と名前を出したら、母が喜んで昔話をしてくれました。

認知が出てから笑うことが少なく、こちらもつい怠ってしまうので、私も嬉しかったです。大阪に妹さんが嫁いでおられるらしいのですが、私の自宅から1駅の所で、大阪の人は冷たいと嘆いておられたので、何かあればどうぞお訪ね下さいとやりとりして会場でK先生とお別れしたのですが、世間は狭く、また不思議な縁も感じて会の開会に努力して下さった皆様に感謝しました。

嬉しさのお裾分けです。m(._.)m

※ご本人の許可を得て、掲載させていただきました。

【編集後記】

座談会については、進行役の村上先生の指揮のもと、書記を務めていただきました愛知学院大学歯学部同窓会女性企画委員会の委員の皆様にお忙しい中大急ぎでまとめていただきました。このようにまとめることによって、今後の活動の方向も見えてくるのではないのでしょうか。また、報告書の作成に当たっては、朝日大学の佐野先生、近藤先生のお力をお借りしました。一人一人の力は小さくとも、3本の矢の例え通り、三校の女性歯科医師が協力することによって、大きな力となったことは確かです。今後は三校のみならず、多くの女性歯科医師が集えるよう発展させられたらと考えます。 (森 榮)